

政治がもっと身近になれば
議会がない時は元気がいっぱい
外を駆けまわっています。



議会報告や、ついでに 市政の様子をお知らせ

何を質問するのかをお知らせする『ごとう由美ニュース』と、議会後の『市議会報告』は「読みやすいね」と好評です。

私の議会活動をお伝えするための大事なツールです。

お困りごとの解決めざして



お気軽にご相談ください。相談は無料です

生活相談 連絡先 TEL090-5702-1869



市議会議員に初当選

25年間党の職員として働いた後、52歳で立候補。「子どもや女性がいきいきできる社会のために」。これらに共感がひろがり、子育て中の若いママ・パパからの声援は大きな励みでした。

プロフィール/1964年、稗原町生まれ。出雲商業高校、倉敷市立短大二部(夜間)保育科卒。倉敷学園勤務を経てひまわり第一保育園に保育士として勤務。民青同盟県委員長、党中央委員会勤務を経て、党中部地区委員長。2017年出雲市議当選(1期)。



“みんな幸せ”がいいよね

子どもが朝食を食べていないのは、親の働き方にも関連があるのだろうか。子どもの生活と政治は結びついていることを教えてくれたのが日本共産党員でした。「誰もが幸せになれる社会を」と、ひまわり第一保育園で入党。

毎議会質問で願いを届け、 市政をチェック

「コロナで仕事が激減し収入が減った」「国保料・介護保険料が高い」「障がい者福祉タクシー制度の改善を」…。切実な願いを取り上げ、改善を求めてきました。



こんなことを実現できました

- 新型コロナウイルス感染拡大により、事業経営に多大な影響を受けている事業者などを支援する「出雲市中小企業等緊急支援給付金」の対象を拡大
- 全小中学校の普通教室へエアコン設置
- 市営住宅に長らくお住まいの方を対象に、老朽化調査で住まいを改善
- 子どもの医療費無料化の対象を拡大

子どもの医療費無料化は私のこだわりです



判断基準は市民の暮らし

誰もが暮らしやすい出雲市をめざし、議案の賛否を考える時、当事者の生の声を直接伺いながら市民の暮らしにとってプラスになれば賛成、マイナスになるものにはキッパリ反対をしてきました。

story ごとう由美 ストーリー



働きながら保育を勉強

「働くなら進学していい」という親の願いで入学した、倉敷市立短期大学二部(夜間)保育科。昼間は学生服の会社で働き、夜勉強する3年間。大学祭では学生自治会会長として頑張りました。

重い障がいを持つ子どもたちと

重い障がいを抱えた子どもたちが通園する「倉敷学園」では、発達をどう保障していくのか、職員会議で真剣に議論。すべての子どもたちの人権を大切にすることを学べた、最初の職場でした。

議場に立つと、願いを
お寄せいただいた方々の
顔が浮かんで、力が入ります。

